

Out of Step? Agricultural Policy and Afghan Livelihoods (Summary Translation of AREU Report)

歩調の乱れ？農業政策とアフガン人の暮らし (AREU レポート要約)

要約

この論点ペーパーは農業と農村における暮らしとの関連を再検討し、これをアフガン政府および国際支援組織のアフガン農業の「危機」への対応の指針となっている主流の考え方および手法と対比するものである。研究の結果、国際援助組織のビジョンが地方政府および中央政府の認識や目標と合致していないことが明らかとなった。確かに統治および生活が崩壊してしまっていると思われるため、多くの援助計画を白紙状態から始めることができる。一方、過去のビジョンが今なお有効であり実行可能であると思われているので、政府のビジョンは進行中の地方のプロセスや国際的な市場動向を無視するように奨励している。しかしいずれも農民の農業開発の自助努力に注目することを奨励していない。現在の農業再生および開発努力は提供側の要因によるものであり、農民が自分の生活を再生、発展させるにあたって達成しようとしていることへの理解に根ざしているのではない。

現在および将来の農業と暮らしとの関係を理解するためには、農業政策および計画がどれだけ現実的で理に叶っていて、またどれだけ全体の状況の実際的な分析に基づいているのかに目を向けることが肝要である。また農産物の市場および農内、農外労働市場の傾向を調査することも重要である。その中心課題は、農業が暮らしの主要な要素でない見通しの中での農業の役割を理解させることである。農民の暮らしの主要な要素は生産性の高い所と低い所で大きく異なっている。前者においては市場の保持および再獲得が主要な関心事である。後者においては多くの農民が限られたまた出来不出来のある農産物とその他の暮らしの選択肢とを組み合わせている。いずれの場合も自給自足の小自作農が農民の生き延びる唯一の形態ではない。

農業政策の調査に加えてこの論文では2つの横断的なテーマを取り上げている。最初のテーマは農業再生の努力がどのように援助介入と農民自身の暮らしの戦略との間の接点をこれまでに形成したかということである。第2のテーマはケシ栽培に関するものである。援助の出費が主として、またおそらく過度に、種子計画に向けられたように、民間部門の努力はもっぱら阿片の生産に集中した。

提言*

この論文に含まれる提言は、農業開発努力がアフガンの暮らしに対する効果を増大させるために、もっと実際的で理に適った手法の枠組みを提案するものである。これらの示唆は、地方の開発過程を推進する上で、また全国的な政策の筋書きの維持において、歴史および現在の社会的、政治的、経済的關係が持っている力を認識している。現在の環境で何ができ、何をすべきかを認識するようなやり方で開発計画を進めるならば、この筋書きはそれと対立しなければならない。

農業開発状態を促進し、調整することの目標と意味について総意を形成する

現在の政策形成では、過去数十年にわたって紛争を引き起こしてきた趨勢を一変させるため、効率性の確立と公平性の増進とを組み合わせる（そして融合する）ことに努力が注がれている。国際的な経験によればこのような組み合わせは可能だが、自然にそうなるというものではない。効率および公平さに対する理にかなった方針と、援助が社会的、政策的、経済的な関係に及ぼすことができる本質的ではあるが限定的なインパクトと現実との間の相反関係の実際的な受け入れとを組み合わせ、もっと事実に基づいた政策に移行する必要がある。

農業開発における民間部門および市民社会の説明責任の再評価と補強

国家の役割をもっと明確にするために、民間部門および市民社会に関する概念と規範的な目標を、このような制度が実際にどのようなものであるかを理解した上で、定めなければならない。民間部門

あるいは市民社会を解決策の名称とするだけでは充分でない。このような部門がどのような農業サービスを提供でき、なぜ農民グループと異なるサービスを提供できる（あるいは提供に失敗する）のかを率直に評価する必要がある。成功するためにどこにこれまでと異なる政策が実施でき、誰がそれによって恩恵を受けるかを予測するには、高い生産性の地域と低い生産性の地域との区別および豊かな生産者とそうでない生産者との区別が前提条件となる。

市場の重要性

抗しがたいと思われる阿片生産の利益に関する問題は別としても、経験に基づく農業経済および市場の考え方は政策および計画立案の中心とはなっていない。多様化と市場志向の重要性を認識している人でも、どこにどのように介入すればよいか決めかねている。市場がそれほど大きな比率を占めることが是認されない国において市場の力の概観しようと試みることは明らかに容易ではないが、しかしこれらの要素を後回しにすることの危険はもっと大きい。市場は公平な農業開発に対する万能薬ではないが、その重要性の認識は、大方の農民の暮らし方および収穫物を売ろうとするときに直面する経済的現実計画に再編する際に重要な一歩である。

危険への対応

紛争と自然災害の教訓に照らして、アフガン人は農業を暮らしにどのように組み込むかについて、どうしても主に危険の評価に基づいて決定してしまう。新たな紛争や自然災害への恐怖が商人、農民、農業労働者の暮らしの選択肢の核心である。国家および支援社会の行動そのものがこれらの危険評価の要因に直接影響を与える。したがって政策形成の際に危険を充分考慮すれば、農業計画立案の妥当性およびその効果は著しく増加する。危険の意識は、援助者を脅かす要素として見るのではなく、農村の暮らしを保護するために優先度を明確にするために使われるべきものである。

* 勧告の詳細については本論文の結論参照。

(以上)

The Afghanistan Research and Evaluation Unit (AREU) is an independent research organisation that conducts and facilitates action-oriented research and learning that informs and influences policy and practice. AREU also actively promotes a culture of research and learning by strengthening analytical capacity in Afghanistan and by creating opportunities for analysis, thought and debate. Fundamental to AREU's vision is that its work should improve Afghan lives. AREU was established by the assistance community working in Afghanistan and has a board of directors with representation from donors, UN and multilateral organisation agencies and non-governmental organisations (NGOs).

Current core funding for AREU is provided by the European Commission (EC), United Nations Assistance Mission in Afghanistan (UNAMA) and the governments of Sweden and Switzerland.

This Japanese translation was undertaken with the permission of AREU. The original contents of the research paper are property of AREU only and are available at <http://www.areu.org.af>

The translation project is run by the Japan Afghan NGO Network (JANN) and this translation is available at www.jca.apc.org/~jann/JANN.html The overview was translated by Nobuhiro Tsuji and edited by Tohru Tada and Christian Dennys.

アフガニスタン調査評価機構 (AREU) は独立の調査組織で、行動指向の調査研究の実行および促進をおこない、それによって政策とその実行にたいして情報提供と影響を与えている。AREU はまたアフガニスタンにおける分析能力を強化することによって、またそれと同時に思考と議論を通じた分析のための機会を提供することによって、調査研究の文化を積極的に促進している。AREU の視点の重要なものは、その活動によってアフガン人の生活を向上させようというものである。AREU はアフガニスタンで活動する支援コミュニティによって設立され、国連、国際機関、非政府組織 (NGO) といった出資者からの代表を伴った理事会を有する。

AREU の現在の資金は、欧州委員会 (EC)、国連アフガニスタン支援ミッション (UNAMA)、そしてスウェーデン政府とスイス政府から提供を受けている。

この邦訳はAREUの許可を得ておこなわれた。調査報告書の原典はAREUのみに所有権がある。以下のウェブサイトから利用可能である<http://www.areu.org.af>

日本アフガンNGOネットワークは翻訳プロジェクトを行っています。これはJANNウェブページで閲覧可能です www.jca.apc.org/~jann/JANN.html これは辻伸浩が翻訳し、多田透とクリステニス編集しました。